

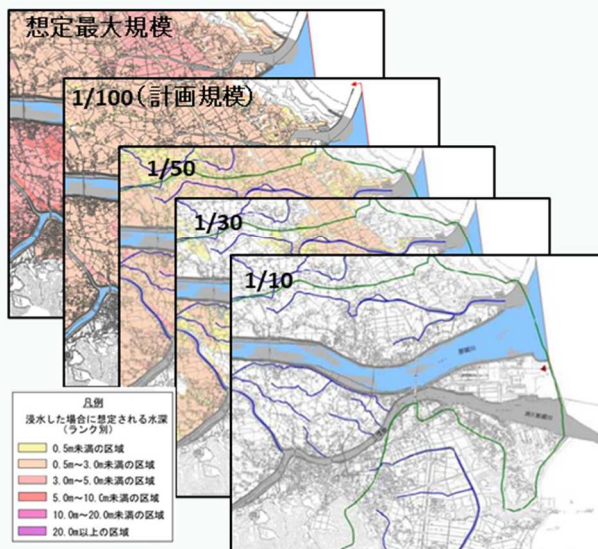
いのちとくらしをまもる
防災減災令和8年6月30日
那賀川河川事務所

那賀川水系の内水と外水のリスクを統合した多段階浸水想定図と 水害リスクマップを公表します ～流域治水の更なる推進に向けて～

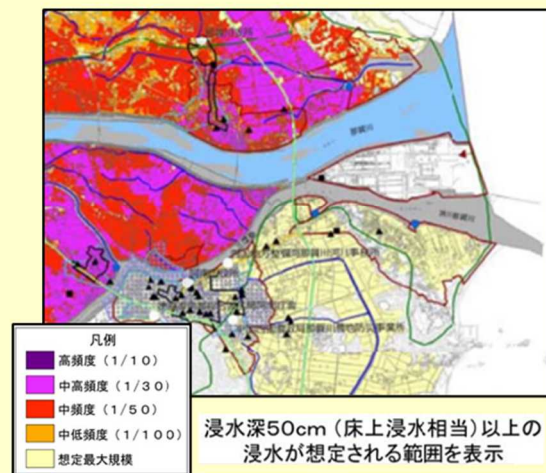
那賀川河川事務所では、那賀川水系の国管理区間からの氾濫（外水氾濫）、支川や下水道等からの氾濫（内水氾濫）を考慮した、内外水統合型の「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を公表します。

まちづくりや住まい方の工夫、企業の立地選択、企業におけるBCP作成など、流域治水のさらなる推進に資する検討に活用されることを想定しています。（別添-1、-2 参照）

【内外水統合型多段階の浸水想定図】



【内外水統合型水害リスクマップ】



《多段階浸水想定図・水害リスクマップの掲載先（那賀川河川事務所 HP）》

<https://www.skr.mlit.go.jp/nakagawa/disaster-prev/riskmap/index.html>

本施策は、四国圏広域地方計画【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】の取組に該当します。

－問い合わせ先－

国土交通省 四国地方整備局 那賀川河川事務所

副所長（河川） 南本 秀行 内線（204）

調査課長 ◎濱井 宣明 内線（351）

電話（0884）22－6461（代）※◎：主たる問い合わせ先

用語解説

外水氾濫

- ・洪水が堤防を越えて居住地側へ氾濫する現象です。

内水氾濫

- ・洪水で川の水位が上がることで降った雨を適切に排水できなくなり、居住地側で氾濫が生じる現象です。

内外水統合型

- ・令和4年度に公表したリスクマップは大臣管理区間の氾濫（外水氾濫）のみを対象としたものでした。今回公表する図面は、内水氾濫と外水氾濫を一体的に解析できるモデルを使用したことで、より浸水実績や地域の実感に近いリスク情報になると期待されています。

多段階浸水想定図

- ・想定最大規模に加え、高頻度～低頻度までの降雨規模ごと（年超過確率 1/10・1/30・1/50・1/100）に浸水エリアと浸水深を示した図です。

水害リスクマップ

- ・多段階浸水想定図を重ね合わせ、浸水発生、50cm（床上浸水相当以上）、3.0m（1階居室浸水相当以上）ごとに浸水エリアと浸水頻度を示した図です。

【参考】洪水浸水想定区域図（ハザードマップ）との違い

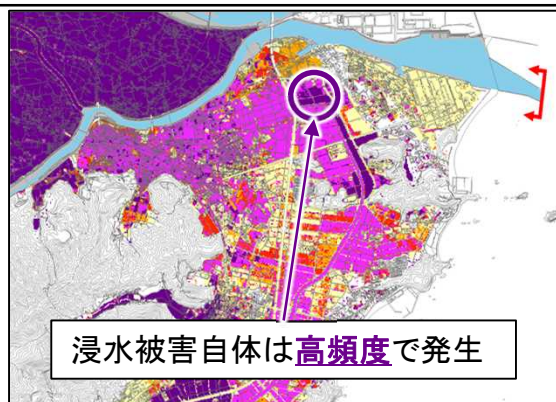
- ・ハザードマップで用いられる浸水想定区域図※は、想定最大規模の降雨を対象とし、避難行動の検討に資する「浸水エリア」と「浸水深」を示した図面です。
- ・本図面では、より発生頻度の高い高頻度～低頻度の降雨も対象とし、「浸水エリア」と「浸水深」に加えて「発生頻度」を把握できるようになりました。
- ・気候変動の影響により豪雨の激甚化・頻発化が課題となる中、水害リスクを踏まえた土地利用の促進や住まい方の工夫など、「流域治水」の検討に活用しやすくなりました。

※洪水浸水想定区域図は、国管理河川

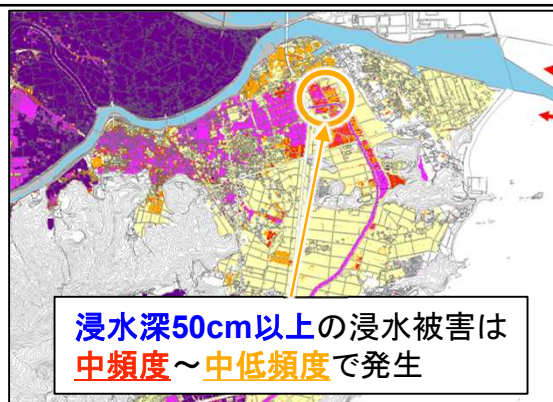
水害リスクマップの活用例

- ・水害リスクマップでは、3つの浸水深ごとに浸水被害が発生する**浸水範囲**と**浸水頻度**を把握できます。
- ・主に土地利用や企業立地選択といった**防災まちづくり**の検討に活用できます。

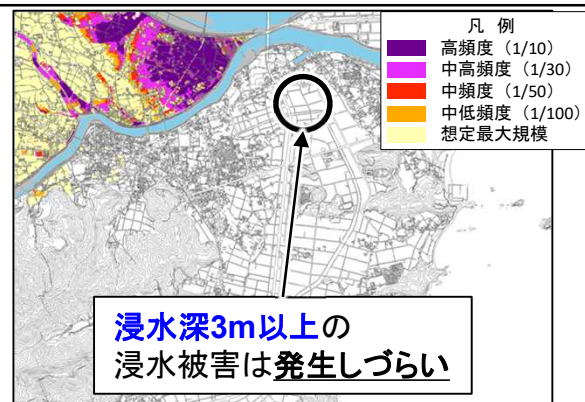
①浸水範囲(浸水発生)



②浸水範囲
(浸水深50cm(床上浸水相当)以上)



③浸水範囲
(浸水深3m(1階居室浸水相当)以上)



浸水深ごとの使い分け(例)

①浸水範囲(浸水発生)

- ・浸水頻度の高いエリアへの住居・施設の立地を避ける
- ・建物内の浸水を防ぐための止水壁を設置する
- ・住宅や車両等の保険を見直す
- ・室外機や電源等の設置箇所を高所に移設する

②浸水範囲 (浸水深50cm(床上浸水相当)以上)

- ・事業継続に必要な資材や資産などを2階以上に保管する

③浸水範囲 (浸水深3m(1階居室浸水相当)以上)

- ・1階をピロティ構造とし、寝室や居室は2階以上に配置する



保険の見直し



ピロティ構造による浸水対策